

乳幼児身体発育調査結果に基づいた、 母乳栄養率の推移についての解析

研究分担者 森崎 菜穂 (国立成育医療研究センター社会医学研究部)

研究要旨

平成30年度の本分担研究では、諸外国の成長曲線では背景情報(出生体重・疾病・服薬歴等)に基づく除外基準で選定された集団で成長曲線を作成していることを報告し、令和元年度は過去の乳幼児身体発育調査票(一般調査票)を海外のそれと比較することで、調査票の改善可能な点をまとめた。具体的には4つの問題点を挙げ、これらについて改善点を提示した。

令和2年度は、過去4回(1980, 1990, 2000, 2010年)の乳幼児身体発育調査の結果を用いて、乳幼児の母乳栄養率の推移について解析した。その結果、日本の完全母乳栄養、および母乳を約1年間継続している児の割合はここ30年間に大幅に上昇を認めた。

A. 研究目的

日本人の平均身長が1975年生まれ以降低下していることが示された¹⁾。この背景には、早産児やearly termと呼ばれる37-38週台での出生の増加、あるいは乳児の栄養方法の変化が影響していると考えられる。しかし、ここ30年の乳児の栄養方法の変遷は知られていない。

本分担研究は、1980,1990,2000,2010年の乳幼児身体発育調査の結果を用いて、乳幼児の母乳栄養率の推移を確認することを目的とした。

B. 方法

本分担研究では、10年毎に厚生労働省が実施している乳幼児身体発育調査のデータを利用申請したうえで用いて、以下の計算を行った。

1. 生後6か月未満の完全母乳栄養の割合(1974-2010) :

乳幼児身体発育調査に参加した月齢6から6歳までの児のうち、月齢0-5のすべてにおいて、哺乳内容が「母乳」が「有」で「ミルク」が「無」であり、「離乳食の開始」が生後6か月以降である児の割合。

2. 生後1年まで母乳栄養を継続している割合(1979-2009) :

乳幼児身体発育調査に参加した月齢12から15までの児のうち、月齢12における哺乳内容が「母乳」が「有」である児の割合。

3. 生後10-13か月まで母乳栄養を継続している割合(1979-2009) :

乳幼児身体発育調査に参加した月齢10以上の児のうち、月齢10-13のいずれかで哺乳内容「母乳」が「有」である児の割合。

C. 結果

解析結果を下記に示す。

1. 生後6か月未満の完全母乳栄養の割合 (1974-2010) :

出生年	完全母乳でない人数	完全母乳の人数	完全母乳の割合(%)
1974	1,204	143	10.62
1975	1,637	173	9.56
1976	1,435	165	10.31
1977	1,451	152	9.48
1978	2,500	240	8.76
1979	5,706	428	6.98
1980	1,753	67	3.68
1984	800	71	8.15
1985	1,006	106	9.53
1986	1,000	105	9.50
1987	952	76	7.39
1988	1,804	162	8.24
1989	3,700	265	6.68
1990	1,011	48	4.53
1994	603	69	10.27
1995	789	92	10.44
1996	821	83	9.18
1997	823	70	7.84
1998	1,333	130	8.89
1999	2,744	220	7.42
2000	875	56	6.02
2004	352	119	25.27
2005	437	140	24.26
2006	481	180	27.23
2007	467	161	25.64
2008	892	299	25.10
2009	1,756	614	25.91
2010	593	148	19.97

2. 生後1年まで母乳栄養を継続している割合 (1979-2009) :

出生年	母乳を継続していない人数	母乳を継続している人数	完全母乳の割合(%)
1979	1,837	406	18.10
1989	999	316	24.03
1999	793	298	27.31
2009	446	370	45.34

3. 生後10-13か月まで母乳栄養を継続している割合 (1979-2009) :

出生年	母乳を継続していない人数	母乳を継続している人数	完全母乳の割合(%)
1974	1,113	320	22.33
1975	1,508	428	22.11
1976	1,296	428	24.83
1977	1,299	419	24.39
1978	2,212	723	24.63
1979	4,383	1,473	25.15
1984	587	296	33.52
1985	696	428	38.08
1986	702	419	37.38
1987	652	388	37.31
1988	1,249	739	37.17
1989	2,445	1,226	33.40
1994	415	282	40.46
1995	576	340	37.12
1996	586	352	37.53
1997	604	335	35.68
1998	913	614	40.21
1999	1,779	1,042	36.94
2004	225	272	54.73
2005	260	351	57.45
2006	292	390	57.18
2007	254	404	61.40
2008	485	757	60.95
2009	880	1,314	59.89

D. 考察

1. 生後 6 か月未満の完全母乳栄養の割合については 2000 年頃までは約 10%で推移していたが、2004 年以降は約 20-26%に上昇した。

2. 生後 1 年まで母乳を継続している割合は 1979 年には 20%未満であったのが、2009 年には 45%に上昇していた。

3. 一時期母乳を中断していた児がいることを考慮し、生後 10-13 か月のいずれかで母乳を与えていた児の割合（生後 10-13 か月まで母乳栄養を継続している割合）を見ると、1980 年より前は 22-25%、1984 年から 1999 年までは 33-41%、2000 年以降に 55-61%に上昇していた。

このように、日本の完全母乳栄養、および母乳を約 1 年間継続している児の割合はここ 30 年間に大幅に上昇を認めた。

E. 結論

日本の完全母乳栄養、および母乳を約 1 年間継続している児の割合はここ 30 年間に大幅に上昇を認めた。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考文献

- 1) Morisaki N, Urayama KY, Yoshii K, Subramanian SV, Yokoya S. Ecological analysis of secular trends in low birth weight births and adult height in Japan. *J Epidemiol Community Health* 2017 Oct;71(10):1014-1018.